

(報告様式 例)

## 仙台圏域の観光の現状・課題・方向性及び取組について【視点 2】

### ①圏域の観光の現状

#### 視点 2 (1)

- 関東圏、関西圏の大都市の市場は魅力的だが、そこから東北に来るまで時間がかかる。
- インバウンドが激減し、当面期待できない。

#### 視点 2 (2)

- 観光客入込数、宿泊観光客数ともに仙台市のウェイトが大きい。
- 圏域内に主要観光地を擁する地域とそうでない地域とがあり、市町村間で観光振興への取組の温度差が大きい。

### ②圏域の観光の課題

#### 視点 2 (1)

- 東日本大震災と異なり、「被災地」が全世界的な規模である。
- 首都圏や関西圏、海外からの誘客は当面見込めず、圏域内・県内、東北での流動を促す必要がある。

#### 視点 2 (2)

- 仙台市と協調しながら、圏域・県として連帯感を共有し、一枚岩になって観光地域づくりを進める必要がある。
- 県内での人の流動が大事であり、そのためには県民の気持ち（シビックプライド）の醸成が重要である。
- 地元の特集をするなど、新聞・報道・テレビ・SNS等で県民の気持ちを動かすような情報発信が必要。

### ③回復戦略や成長戦略などの方向性・具体的な取組等

#### 視点 2 (1)

- 「マイクロツーリズム」として、仙台圏域内、宮城県内や東北+新潟県の中で交流人口を増やす。
- 国のGo Toキャンペーンを待つことなく、域内流動できる仕掛けづくりや宮城県独自の誘客キャンペーンを実施する。
- 仙台圏域に居住・訪問している人の流動・周遊・消費を促す企画を開発する。
- 公共施設（博物館・美術館等）や公共交通への補助や無料化により、街歩きを促進する。
- 圏域内にある観光スポットをつないだモデルコースを充実させる。
- 二次交通を活用したモデルコースを充実させる。

#### 視点 2 (2)

- 地元の人が地域の魅力を知り、その魅力に対するシビックプライドを持つことで、一人一人が「観光マン」となるような機運を醸成する啓発活動を実施する。
- 地元の人が宮城の魅力を発信し話題づくりを行いたくなる仕掛けを創出する。

### ④委員からの主な意見

(今回の会議でいただいた意見を記載します)